

5. 新島におけるシカ(外来種)の捕獲

視察実施日：2011年3月4日(金)

視察先：東京都新島村役場産業観光課農林水産係

(1) 被害状況

- ・シカの採食圧や踏み荒らしに、地震や台風の影響が複合的に樹木の枯死や森林崩壊、土壌流出として表れている場所もある。
- ・市街地に3回出没したことがある。
- ・シカにつくダニが人にもつくため、衛生面でも島民は困っている。

(2) 実施内容

① 予算

- ・有害鳥獣補助事業(都, 国): 大島タイワンザル, 大島タイワンリスと同じ)

② 実施地域

- ・市街地をのぞく全域。

③ 捕獲目標

- ・年間 500 頭
 - * 新島シカ根絶計画(2008年3月自然研作成)に毎年 400 頭捕獲すると数年で根絶できるシミュレーション掲載されている。

④ 捕獲方法

- ・足罠(通常のかくりワナ) 1,585 基
- ・首罠(かくりワナを首狙いで使用) 469 基
- ・囲い罠 4 基
- ・総数 2,058 基
 - * 数字は平成 23 年 3 月 4 日現在)
 - * 罠はほとんど道路沿いにある。
 - * 道路沿いには、罠への誘導柵が張ってある(かなりの距離)
 - * 今後、捕獲実績が 1 割に満たない首罠を減らし、足罠を増やす予定。囲い罠は現在機能していない。
 - * 銃は、従事者が高齢であり安全面から使用していない。

⑤ 実施体制

- ・役場が雇用している 6 名でワナの設置、見回り。
- ・6 名のうち 1 名は「とめさし」も実施。
- ・6 名以外の 2 名に「とめさし」を依頼する場合もある。
- ・見回りは月曜日、水曜日、金曜日(火曜日、水曜日も実際は活動しているとのこと)

- ・年末年始休みを除き通年実施。
- ・従事者は誰でも良いわけではなく、やる気や技術が必要であることから、人材の確保や育成で困っている。

⑥捕獲実績

- ・平成 17 年度 229 頭、平成 18 年度 273 頭、平成 19 年度 436 頭、平成 20 年度 548 頭、平成 21 年度 446 頭、平成 22 年度 363 頭（3 月 4 日現在）
- ・平成 19 年度以降は予算増額により捕獲数も増加している。
- ・平成 20 年度以降の捕獲数は、捕獲努力量がほぼ同じであるにもかかわらず減少しており、捕獲効率が下がっていると推測されている。現場でも捕獲できなくなっているという。
- ・平成 19 年度以降は同じ罫数でほぼ通年稼働を毎年繰り返しているとのこと。
- ・また捕獲個体の性比は平成 10～19 年度はオスが多いが、平成 21～22 年度は逆転して、メスが多くなっている。
- ・大物が捕獲されなくなったとのこと。

⑦捕獲個体の処理方法

- ・村職員が実施（捕獲の報告を受け出動）して埋却
- ・シカの体重がエゾシカ級なため、ウインチを軽トラに装備したとのこと。

⑧捕獲以外の対策

- ・ネット，単管を 50%補助している。

(10) まとめ

- ・役場、従事者は、熱心に取り組んでおられる。
- ・予算が大きいですが、捕獲実績もあがっており、とりあえずうまくいっている。
- ・島に限らず過疎地全般にいえるが、従事者の継続的な確保が一番の課題である。
- ・捕獲をこのまま継続して、全島を低密度にすることが重要である。
- ・シカの採食圧＋踏み荒らし＋地震＋台風の複合的な影響で植生が崩壊している場所が見られた。急峻な地形のため、シカの密度が高まれば影響はさらに深刻になると考えられる。
- ・日給制を採用していることは重要な人材確保の方法である。1 頭あたりいくら払うという報奨金制度は、多数が捕獲できる初期はいいが、捕獲効率が下がってくると受け取る報奨金が少なくなりモチベーションが保てない。定額の給料制は捕獲数に関わらず収入が見込めるためモチベーションが保ちやすい。



新島の平野部



土壌流出



下層植生の状況



土壌流出とシカ道



誘導型捕獲柵



足くりワナ